

発見！！

さがみはう

おぐりはんがん てるて ひめものがたり まき
小栗判官と照手姫物語の巻



①

②

イラスト：紙芝居「さがみの国のてるて姫」相模原商工会議所青年部 提供

● はじめに

小栗判官と照手姫の恋物語は、室町時代の軍記物語『鎌倉大草子』の中の話が元となり、説経節(※)や人形浄瑠璃・歌舞伎の演目になりました。

物語に関係のある場所は、茨城県から和歌山県まで拡がっています。

神奈川県内や相模原市にも縁の場所があります。

今回はこの物語について、相模原市に伝わるお話を紹介します。

※説経節…仏教の教えを広めるため、三味線などの伴奏を付けて一人で物語をかたる芸能・語りもの文芸。中世末から近世にかけてさかんに行われ、「小栗判官」は特に有名です。



● かみみぞ でんせつ 上溝の伝説

昔、上溝村の豪族・横山将監の館にお姫さまが生まれ、「照手姫」と名付けられました。日金沢（ひがんざわ または ひかねざわ）の清水で肌を磨き、美しく成長した姫は、ある日、怪我をした若い侍の手当をしました。この若者は、横山氏と当時争っていた敵方の大将・小栗満重でしたが、姫も小栗もお互いを忘れられなくなり、密かに逢うようになりました。やがて将監にこのことが知られると、将監はとても怒って姫の外出を禁止してしまいます。しかしどうしても小栗に会いたい姫は、ある夜に館を抜け出して、小栗のもとへ行ってしまいました。将監は大変に怒り、味方の全軍を小栗に向けたため、激しい戦いが起こりました。この戦いで横山方は敗れ、大将の将監も殺されてしまいました。これを聞いた照手姫は、とても悲しみ、毎日泣いて暮らしたとのことです。

中央区上溝の横山丘陵地は、照手姫伝説伝承地として、平成13年4月に市の登録指定史跡となり、姥川沿いに散策路ができます。また照手姫を祀る榎神社の榎は、姫が挿した杖だったといわれ、現在は2代目が植えられています。

● さがみこ 相模湖の伝説

昔、底沢に「北面の武士」と名のる侍の夫婦がやって来ました。子どものいない夫婦の願いが叶い、生まれた女の子は「照手姫」と名付けられ、美しく成長していきました。しかし、相次いで両親が亡くなるとともに、姫は行方知れずになりました。

一方、常陸国（ひたちのくに）の領主だった小栗判官は、傭兵を買って国を追放されてしまいました。家来とともに親戚を頼って三河へ旅をする途中、盗賊とは知らずに横山氏の館に泊まります。そこで、もてなし役で働いていた照手姫と親しくなり、夫婦になる約束をします。

横山氏は小栗たちの金品を奪おうと、まず人食い馬の鬼鹿毛に殺させようとしていますが、小栗はすぐにこれを手なずけてしまいました。次に宴会に小栗たちを招きました。照手姫は、心配して止めようとしていますが、小栗は家来もろとも毒酒を飲んで殺されてしまいました。更に姫も川に沈めようとしていますが、流れ着いたゆきとせが浦で、人買いに売られてしまいました。そして、美野国（みののくに）の青墓（あおはか）という宿場で、つらい水仕事をさせられます。

さて、小栗は地獄行きになる寸前、家来の願いで生き返り、歩くことも見聞きすることもできない餓鬼阿弥の姿となって、藤沢の遊行上人に助けられました。そして土車（つちぐるま）に乗せられ、照手姫やたくさんの人たちに曳かれて、熊野の湯の峰（くまのゆのみねとうじ）で湯治（温泉で体を癒す）したおかげで、元の姿に戻りました。その後、照手姫を迎えて行き、横山氏を罰し、ともに幸せに暮らしたとのことです。

緑区の小原（おはら）にある底沢の「美女谷」という地名は、絶世の美女と言われた照手姫の故郷であったからだといわれています。また奥にある七つ瀬（しちつせ）は、照手姫がそこで髪を洗ったと伝えられています。



● じんぶつ 人物のモデルは？

横山氏は横山党（よこやまと）といつて、現在の巴王子（おうじ）を中心に武藏国（むさしのくに）～相模国（さがみのくに）の一部（現在の埼玉県～神奈川県北部）を治めており、多摩（たま）南部（なん）周辺（しゆへん）にあつた御牧（みまき）（朝廷の馬を育てる牧場）を管理する役職（別当）についていた豪族（ひしゆう）でした。また、小栗氏（おぐらしゆう）は、伊勢神宮（いせじんぐう）の領地（りょうち）であった常陸国（茨城県）を治めていた地方武士（ちほうぶし）でした。しかし、照手姫が実際にいたという証拠（じょうこ）は、残念ながらありません。そのためか、各地に残る照手姫の物語は様々（さまざま）な種類（しゅるい）があり、決まった形（かたち）はありません。物語があちこちで語られるうちに、その地方の話と結びついて、豊かになっていったのかもしれません。



● その他の伝承地・モニュメント

橋本の杜のホール入口と、橋本駅北口から西方向に少し歩いた商店街の中には、照手姫の銅像(表紙①)とオブジェ(表紙②)があります。

藤沢市の遊行寺には、小栗判官と照手姫の墓や、小栗の死後、照手姫が尼となって晩年を過ごしたとされる長生院があります。

また、和歌山県の田辺市本宮町湯峯には、小栗が乗ってきた車塚や、力試しをした力石・湯治した壺湯などの史跡が残っています。

〈参考にした本〉

・『照天姫物語』

篠崎芳治／著 篠崎芳治 1986 (K1-38)

・『歴史研究 春林文化 第4号』

歴史こぼれ話を語る会／編 城山地域史研究会 2009 (K1-21/城山)

・『相模原民話伝説集 改訂増補』

座間美都治／著 座間美都治 1978 (K1-38)

・『かながわのむかしばなし50選』

神奈川県教育庁文化財保護課／編著 1983 (K0-38)

・『橋本の歴史ガイド・ブック』

橋本の歴史を知る会／編 橋本の歴史を知る会 2015 (K1-21)

・『さがみはらの地名』

相模原市教育委員会／編 相模原市教育委員会 1990 (K1-29)

・『てるて姫の里ロマン探訪の小路イラストマップ』

相模原市役所みどり対策課 2005 (K1-29/J)

・『本宮町史』

本宮町史編さん委員会／編 本宮町 2004 (K9-21/友好都市)

〈参考にしたホームページ〉

・相模原市ホームページ

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/>

・相模湖観光協会

<https://www.sagamiko.info/>

第52号 平成28年1月(令和5年7月改訂)

発行：相模原市立橋本図書館

でんわ：042-770-6600 ファックス：042-770-6601

ホームページ

<https://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp/TOSHOW/asp/index.aspx>

